

米国の中規模州立大学における 学習成果の診断 (Assessment)

東洋大学
IR室・FD推進センター共催ワークショップ
2015年11月19日

本田 寛輔
Director of Assessment
Office of the Provost
University of Maine at Augusta

はじめに

- 講師の自己紹介
 - 全入、社会人、遠隔教育の大学
 - ホテルのレストランから町の食堂へ転職

- 発表の目標
 - Assessmentの概論と手法
 - Assessmentの結果の活用
 - Assessmentの活動実態

学習成果が求められる背景

- 学費の上昇
- 成績のインフレ
- 就職率の低下
- 政府の規制

学習の成果って何ですか？

コミュニケーション

就職率

IT技能

専門知識

就職先

批判的思考

大学院進学

文章作成

学習成果をどうするのですか？

測定と賞罰

評価

Evaluation

診断

Assessment

測定

測定と助言

把握

評価と診断の違い

	評価 (Evaluation = Measurement + Final Judgment)	診断 (Assessment = Measurement + Improvement)
プログラムの次元	GPA: 大学が奨学金、卒業、大学院進学などの判断の為に、科目の成績を平均化	カリキュラムの改善: 教員集団がカリキュラム改善の為に、学生の達成度をプログラムの学習成果に基づいて測定
科目の次元	成績: 教員が、学生の達成度を判断する為に、科目の教育目標に基づいて測定	教授法の改善: 個々の教員が教授法改善の為に、学生の達成度を科目の学習成果に基づいて測定

IRとAssessmentの違い

IR

学生データ

- 入学
- 奨学金
- 在籍率
- 成績
- 卒業率
- 就職率

Assessment

アンケート調査

(間接指標)

- 新入生
- 学習実態
- 満足度
- 卒業生

学習成果データ

(直接指標)

- ルーブリック
- ポートフォリオ
- 試験
- 論文

IRとAssessmentの統合

入学

学習

卒業

IR Data

- 出願者数
- 入学率
- 奨学金

Assessment Data

- 学習経験
- 学習成果
- カリキュラム
- 教授法

IR Data

- 卒業率
- 就職率

IR Data

- 成績
- 在籍率
- 満足度

学習成果に関する業務

- 教養教育 (Gen Ed) の診断
- 学科別自己点検と外部審査の支援
- 学生による授業評価の実施
- 学習実態調査の分析
- EM関連の分析
- 他部署のアンケート実施の支援

事例の一覧

- GPAの活用状況
- カリキュラム・マップ
- 学生による授業評価
- 学習実態調査
- ルーブリック
- 情報リテラシー共通試験
- CEQプロジェクト
- 戦略計画

学習成果の測定道具

日本で米国の手法を導入しても、
上滑りしていませんか？

道具は使い方次第で効果が変わります。

どこまで出来ているのか？

答えは主観的¹であり、

且つ相対的²である。

1. 理想、期待値など
2. 比較対象、時系列など

GPAの活用状況(1)

- 奨学金、卒業基準、表彰などで活用
- 適格認定の学習成果の基準では活用不可
 - 教員間による成績付けのバラつき

GPAの活用状況(2)

- 難関科目 (Barrier Course)
 - 学内の文脈
 - データ分析例

参照例 <https://www.fgc.edu/wp-content/uploads/2011/12/statbriefmar2008b.pdf>

GPAの活用状況(3)

- 学習コーチ
 - 学内の文脈
 - 成績分布の分析
 - 集団面接による質的情報の分析

カリキュラム・マップ

- 誰が、何を、どの程度、教えているか
<http://assessment.uconn.edu/primer/mapping1.html>
http://www.ynu.ac.jp/education/plan/curriculum_map.html
(日本語の参照例)
- 学内の文脈(専門課程と一般教育課程)
- 歯科衛生科目の例
- 学習成果の診断への準備運動

ルーブリック

個別科目での活用

- 教員の頭の中にある基準を明確に外部化する
 - 学生からの質問や苦情が減る
- http://www.niad.ac.jp/n_kenkyukai/1229401_1207.html
(日本語の参照例)

教育課程での活用(ENG101)

- 教員間の共通理解を拡大する
- 1つの小論文を2名の教員が査読
- 査読結果が分かれた場合、2名の教員が結果を議論するか、3人目の教員を査読に当てる

学生による授業評価

- 学内の文脈
- 質問内容: 授業方法と学習成果
- 質問項目と教員組合
- 回答率と同僚評価

質問例

<https://teaching.berkeley.edu/course-evaluations-question-bank>

学外の業者

<http://ideaedu.org/services/student-ratings-of-instruction/>

学習実態調査

- 全米学習実態調査
(National Survey of Student Engagement)
- 質問項目の構成
http://nsse.indiana.edu/html/survey_instruments.cfm
<https://jsaap.jp/index.html> (日本語の対照版)
- 学内の文脈
- 経年分析の例
- 全学目標の設定

情報リテラシー共通試験

- 情報リテラシー(SAILS)
<https://www.projectsails.org/>
- プロジェクト管理
- 学内でのデータ発表
- 結果をどう活用するか？
 - 教員と図書館員の協同

ポートフォリオ

- 総合的に学生の習熟度をみれるが、準備と作業が大変
- 学習成果
<http://www.tdupress.jp/books/isbn978-4-501-62740-9.html>（日本語の参照例）
<http://as.wiley.com/WileyCDA/WileyTitle/productCd-0470503769.html>
- 教員審査
http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/28803/1/11_P129-140.pdf（日本語の参照例）

付録: その他業務

- 戦略計画の診断
- コロンビア大学College Educational Quality Project
<http://collegeedquality.weebly.com/>
- 高大連携プログラムの診断
<http://www.nacep.org/>

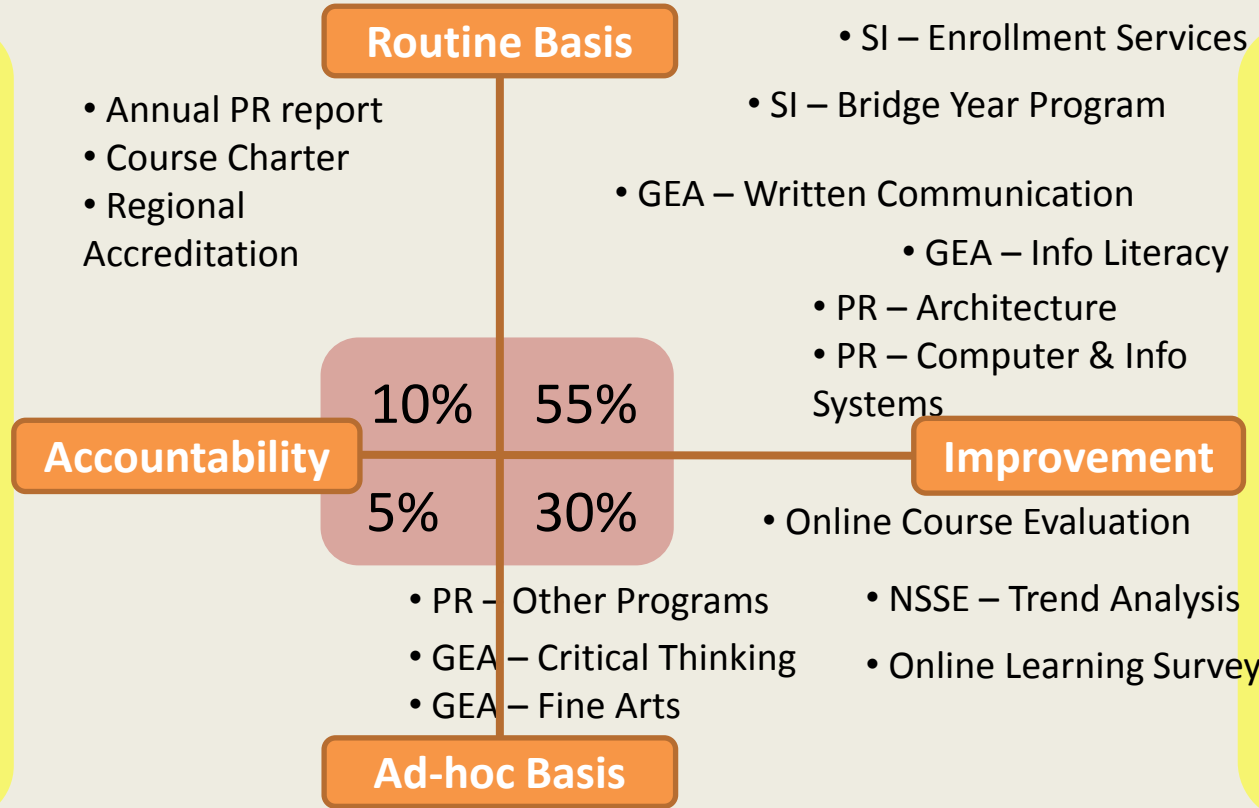
まとめ

総論

四象限による業務分析

KEY:
 GEA=Gen Ed Assessment
 PR=Program Review
 SI=Strategic Initiative

- Context**
- One Person Office
 - Report to Provost
 - College Deans
 - Academic Coordinators
 - Assessment Committee
 - Faculty Senate



- Context**
- Limited resources
 - Faculty incentive
 - Policy making
 - Objectivity and trust

データ活用の複雑な様相

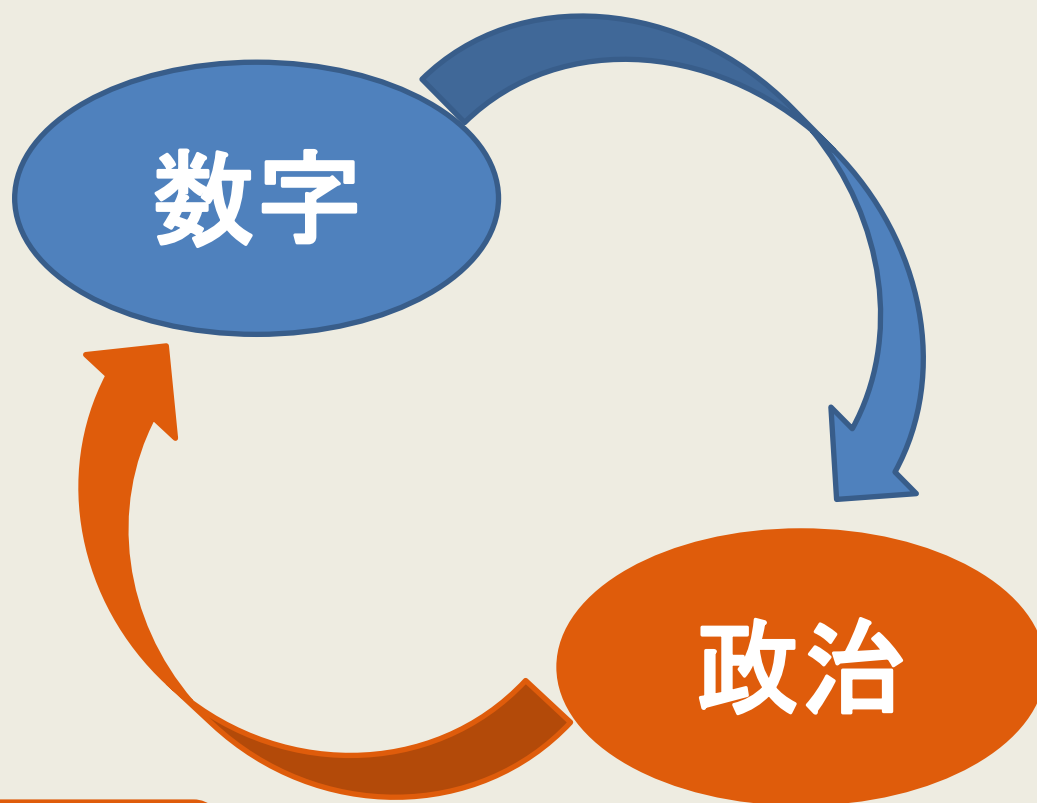
- データの

□収集

□分析

□共有

□活用



状況把握

判断材料

IRとAssessment: 学内体制の例

小規模
教養教育私立大学

Provost
(学務筆頭副学長)

Office of IR &
Assessment

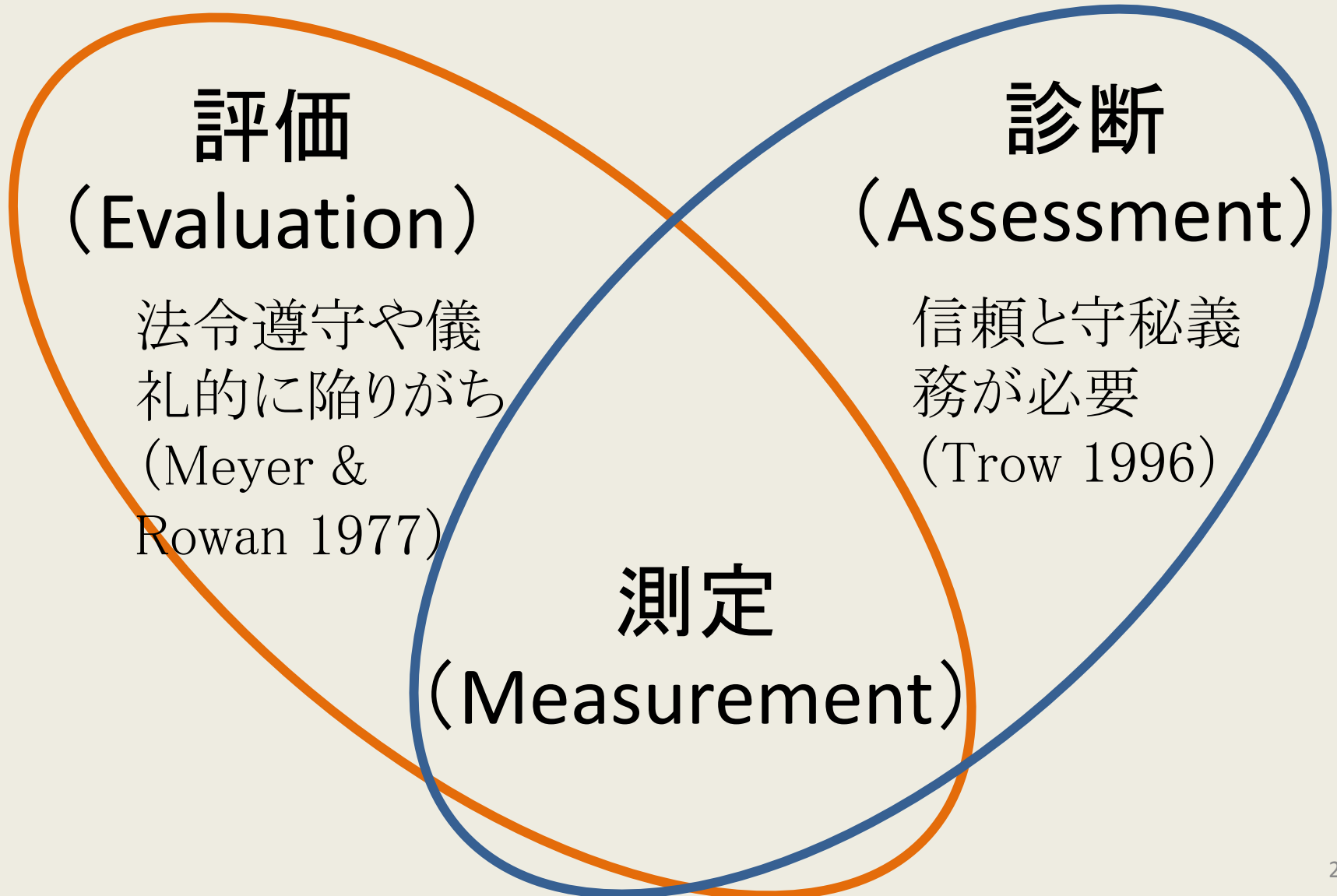
大規模
研究重点州立大学

Provost
(学務筆頭副学長)

Office of IR

Office of
Assessment

測定、診断、評価



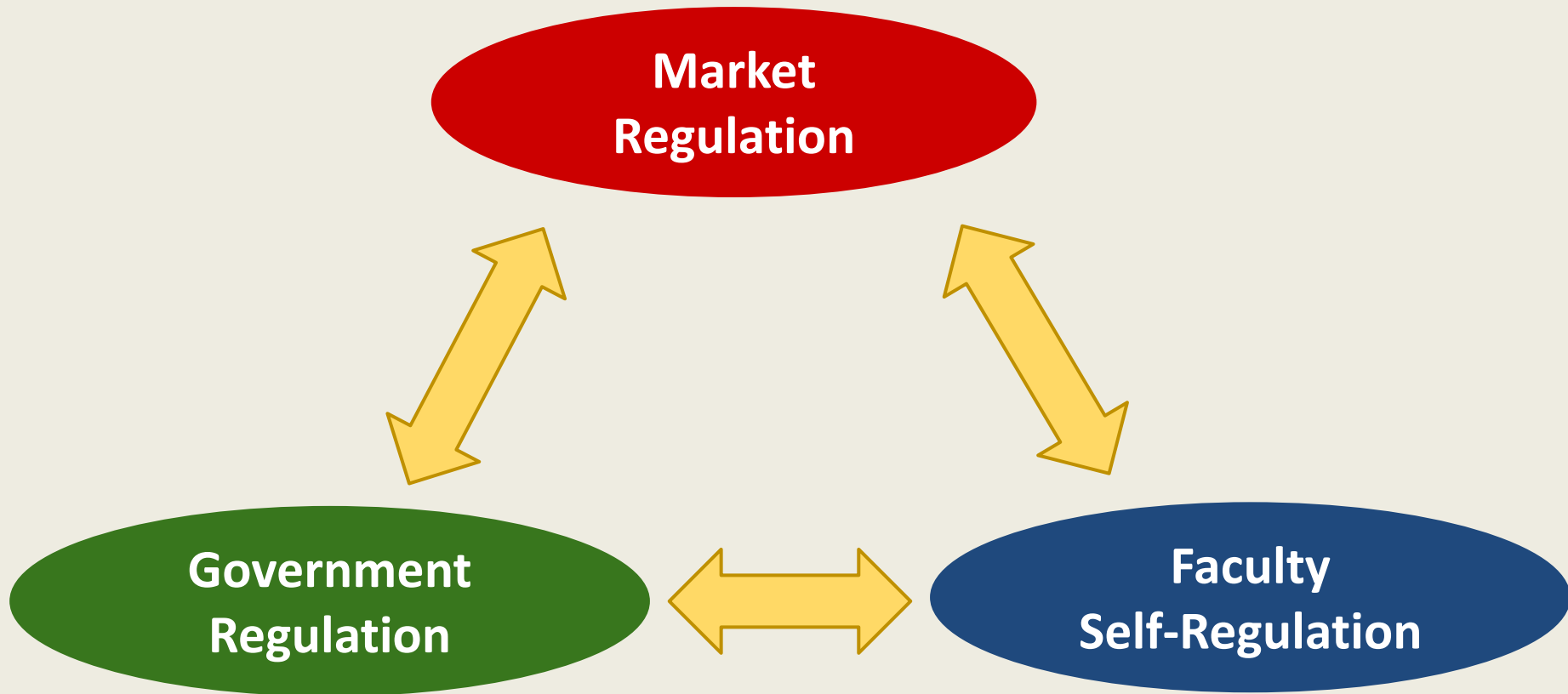
おわりに

学外の環境

- 伝統的IRの行方 (Data Warehouse/BI)
- 外部コンサルティング会社 (EM/Advising)
- MOOC
- 不公平な大学間競争

Macro Perspective

Triangle of Coordination in Higher Education



Clark, B.R. (1983). *The higher education system: Academic organization in cross-national perspective*. Berkeley, CA: University of California Press.

おわりに

学内での働き方

- 非定型業務を動かせる
- 教員を支え、頼りにされ、時に気付きを与える
- 執行部には選択肢を提示する
- 基本的には黒子

格言

データがないと始まらない

けど、

データがあっても始まらない。